

がん研究奨励賞 (林原・山田賞)



河野 吉泰

略 歴

平成19年4月 三豊総合病院 初期臨床研修医
平成21年4月 三豊総合病院 内科後期研修医
平成22年4月 津山中央病院 内科
平成24年4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 博士課程 入学
平成28年3月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 博士課程 修了
平成24年4月 岡山大学病院 消化器内科 医員
平成30年4月 広島市立広島市民病院 内科 副部長
現在に至る

研究論文内容要旨

胃癌は一般的に高齢者に多い疾患であり、その最大要因はヘリコバクター・ピロリ菌（Hp）の長期感染に伴う慢性胃炎であるが、稀に20～30歳代の若年者の症例を経験する。既報では若年者胃癌は女性ならびに未分化型癌が多く予後不良とされているが、疾患頻度が低いためHpとの関連や臨床病理学的特徴については不明である。今回我々は、2007年1月から2016年1月の期間で、岡山大学病院および関連病院3施設において原発性胃癌と診断された発症時年齢40歳未満の72例を対象とし、その臨床病理学的特徴につき後方視的に検討した。

検討の結果、66例（92%）が未分化型癌であり、Hp陽性者は感染状態が確認された67例のうち54例（81%）と高率であった。遠隔転移を有するStageⅣの症例は全て何らかの自覚症状が診断契機となっており、年代別の検討では20歳代の胃癌症例は30歳代と比較してStageⅣの症例が優位に高率であり、全生存期間も有意に不良であった。

本研究の結果から、若年者胃癌はHp感染率が高く、自覚症状を有する際には進行期で発見され予後不良であることが明らかとなった。高齢者と同様に、若年者においてもHp感染状態を確認することは、胃癌リスクの評価や除菌治療による胃癌発症予防につながる可能性があるため重要であると考えられた。